



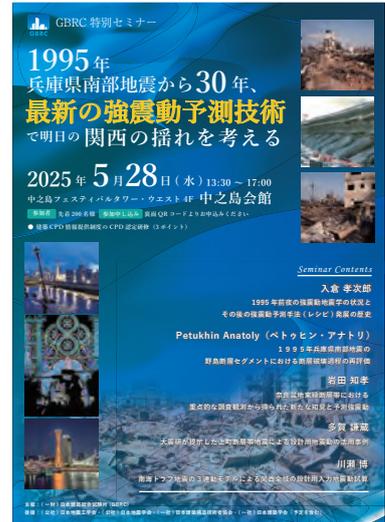
GBRC 特別セミナー

「1995年兵庫県南部地震から30年、最新の強震動予測技術で明日の関西の揺れを考える」 開催のご案内

事務局総務部研修課

前号の機関誌GBRCでお知らせしました通り、『1995年兵庫県南部地震から30年、最新の強震動予測技術で明日の関西の揺れを考える』と題してGBRC特別セミナーを開催します。

1995年兵庫県南部地震（阪神・淡路大震災）から30年が経過し、我が国の強震観測網は各段に高度化・高密度化され、強震動予測の技術もその観測事実即した高度化・最適化が図られてきました。そもそも兵庫県南部地震とはどんな地震だったのか、その後全国に展開された強震観測データから私達は何を学んできたのか、そして将来の西南日本はどのような揺れに備える必要があるのか、について専門家に情報提供をお願いするとともに、当法人からも素材を提供し、参加者とともに考えるセミナーを開催します。



催し名称：GBRC特別セミナー／申込みおよび詳細は当法人HPをご覧ください。

(<https://www.gbrc.or.jp/training/seminar2025/>)

開催日時：2025年5月28日（水）13:30～17:00

開催場所：中之島フェスティバルタワー・ウェスト 4F 中之島会館（大阪市北区中之島3-2-4）

参加費：無料（事前申込制）

主催：（一財）日本建築総合試験所

後援：（公社）日本地震工学会、（公社）日本地震学会、（一社）日本建築構造技術者協会、
（一社）日本建築学会（予定を含む）

講演者紹介

1995年前夜の強震動地震学の状況と今後の強震動予測手法（レシビ）発展の歴史

内陸での大きな地震は活断層に起因し、地震による被害の多くは強い揺れに依ることは学術的には1995年頃には良く知られていた。しかしながら、断層に地震が生じたとき揺れはどのようなものか研究は遅れていた。その理由の1つは断層付近での揺れの記録がほとんどなかったことにある。この地震の揺れがどのようなものであったか極めて限られた記録を集め、震源と伝播経路を復元し、揺れを再現するための関心について報告する。

入倉 孝次郎 RIKURA KOJIRO
(略称)
1963年京都大学理学部物理学系、京都大学理学博士、京都大学防災研究所助教授、助教授、教授、所長、京都大学副学長を歴任。現在愛知工業大学客員教授。専門は震動地震学。

1995年兵庫県南部地震の野島断層セグメントにおける断層破壊過程の再評価

兵庫県南部地震の際の淡路島観測点AWAの観測波形再現を目指し、非線形3Dインバージョンと相反法を用いたグリーン関数を用いた強震動予測手法（レシビ）を参考に特性化震源モデルにより野島断層の破壊過程を改めて評価した。

Petukhin Anatoly ペトゥッヒン・アナトリ
(略称)
1983年 Moscow Institute of Physics and Technology (MPTI)より理学博、1987年ロシア科学アカデミー、1990年 Scientific Institute of Physics of the Earthより博士号取得。その後東京大学防災研究所博士号取得。淡路地震観測隊副所長（4年）、GIS（地理）主任研究員を経て、2024年より京都大学防災研究所特任教授、兼 GBRC 数値解析室主任調査員。

奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測から得られた新たな知見と予測強震動

令和元～3年度に文部科学省の委託研究として実施された「奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測」では、活断層帯の長期評価および強震動評価の高度化に資する調査研究を行った。そこで得られた知見および想定地震に基づく強震動評価結果について紹介する。

岩田 知孝 IWATA TOMOTAKA
(略称)
1983年京都大学大学院理学研究科博士課程修了。京都大学理学博士、日本学術振興会特別研究員、京都大学防災研究所助手、同教授。2024年定年退職、京都大学名誉教授。

大震研が提示した上町断層帯地震による設計用地震動の活用事例

「大阪府域内陸直下型地震に対する建築設計用地震動および設計法に関する研究会（略称：大震研）」がその成果を提示して十余年が経過した。関西の構造設計者を中心とする自主的な研究組織の発足からの経緯と成果の概要を振り返ったのち、高層建築物等の構造性能評価期間としてのGBRCから見た成果の活用状況と今後の課題について考察する。

多賀 謙哉 TAGA KENZO
(略称)
1979年4月～2010年12月 株式会社日建設計（主任構造設計）
2011年1月～2022年3月 神戸大学大学院工学研究科建築学専攻教授
2023年6月～現在 一般財団法人日本建築総合試験所 常務理事

南海トラフ地震の3連動モデルによる関西全域の設計用入地地震動試算

南海トラフ沿いの巨大海溝型地震の発生が危惧されており、それに対応した設計用入地地震動を適切に使用することは西南日本における長期間観測データのレトリブション観測に向けた課題である。GBRCではより高層型強震動予測の実施とその社会実装を目指して、関西全域2層4県の1kmメッシュでの設計用入地地震動の整備を準備してきており、その基本方針と想定シナリオ、および発表報告までの試算結果の概要を報告する。

川瀬 博 KAWASE HIROSHI
(略称)
1978年京都大学工学部卒、1980年同大学院工学研究科修士、同年同専攻（数）入社、1986年～1988年東芝川口研究所、1990年京大工学博、1996年清水建設退職、九州大学助教を経て、2009年同教授、2018年京都大学防災研究所教授、2018年同専攻教授を経て2024年2月よりGBRC理事長。

お申込み方法

下記QRコードまたはURLより申込みフォームからお申込みください。

<https://shiken.gbrc.cloud/joins/add/168>

お問合せ | 一般財団法人 日本建築総合試験所 事務局 研修課 | 06-6834-4775 | kensyu3@gbrc.or.jp

※定員に達した時点で締め切りとさせていただきます。

TIME	内容
13:30～13:35	ご挨拶
13:35～14:20	1995年前夜の強震動地震学の状況と今後の強震動予測手法（レシビ）発展の歴史
14:20～14:50	1995年兵庫県南部地震の野島断層セグメントにおける断層破壊過程の再評価
14:50～15:20	奈良盆地東縁断層帯における重点的な調査観測から得られた新たな知見と予測強震動
15:20～15:30	休憩 10分
15:30～16:00	大震研が提示した上町断層帯地震による設計用地震動の活用事例
16:00～16:30	南海トラフ地震の3連動モデルによる関西全域の設計用入地地震動試算
16:30～17:00	パネルディスカッション

■お問い合わせ先：
事務局 総務部 研修課
TEL：06-6834-4775
E-mail：kensyu3@gbrc.or.jp